

AAさんへのインタビュー（no. 071）

《プロフィール》

同志社大学文学部美学芸術学科 4 回生 AAさん（女性）

関係：サークルの先輩

日常活動：服飾サークル、イベントサークル、アルバイト

内定先：伊勢丹

《インタビュー》

AAさんは、夏休みに3週間内定先である伊勢丹のインターンシップに参加されました。ですので、今回のインタビューでは、インターンと、面接について主にうかがいました。

□インターンシップについて教えてください。

インターンシップで何を得たいのか、目標設定ができている人が求められていると思った。ある企業では、「わざわざ無償で働かなくてもアルバイトでいいのでは」と言われたので、アルバイトではなく、仕事をするという意識ということを伝えた。

インターンに参加することで、就活前に足りないものを発見することができ、その企業に就職したときの実際の仕事を目で見ることができる。

また、長期のプログラムだったので、同じ目標に向かう人たちと友達になることができた。その人たちとは今も交流が続いている。

□インターンシップに参加することで、内定に有利になることはありましたか？

特になかった。内定者の中にインターンの友人も数名いたが、そんなに多くはなかった。気に入られたら有利になるかもしれないが、そこで失敗すると、逆に本番で不利になってしまうのではないかと。

しかし、企業の情報は、参加してない人よりも多く入ってくるので、その点では有利だったと思う。

□面接にはどのようなものがありましたか？

一次ではグループ面接を行うことが多かった。ほかに出された議題についてグループで

イスカッションもあった。あとは個人面接。

□面接のためにどのような準備をしましたか？

面接のためだけではないが、自己分析+業界分析をしていた。百貨店業界に関する新聞記事をずっとスクラップしていたり、店舗見学に行ったりした。客層やライティング、商品の見せ方など百貨店ごとに研究した。

他己分析をしてもらうことも効果的。本当に仲の良い友人には、ずばずばと長所や短所を言ってもらえるし、普通の友達はやんわりした短所を言ってくれるので、弱みの裏の強みを見つけることができた。

たとえば、「頼まれたら断れなくていっぱいいっぱいになってしまう」→「何事も計画を立ててこなしていく」という強みに変えて、お客様の要望にも応えていくというアピールができた。

自己分析を基本にしながら、面接のQ&Aノートを作った。

□面接ではどのようなことを意識しましたか？

表現や挨拶は自分らしく、声は大きめで、にこにこ・はきはき・きびきび、早口にならない、話している人を聞こうとする姿勢、そして、販売員にいそいで、将来会社を任せられるという印象を与えられるよう意識した。

質問には、具体的な例に自己アピールをまじえながら答えた。また、質問の裏を読んだ。例えば困難→何を困難と考えるか、どう対処するか。が問われているので、どう乗り越えたから、会社でもできます。という風に答えた。

《まとめ》

AAさんはずっと百貨店を志望されてきました。しかし、ひとつの業界にこだわらず、広い視野で業界も研究した結果、やはり自分には百貨店だと思ったそうです。ずっと働き続けるためには、業界研究は大切だと思いました。

また、自己分析をすることが重要であると、今回のインタビューでも思いました。

ABさんへのインタビュー (no. 072)

《プロフィール》

同志社大学法学部法律学科4回生 ABさん (男性)

関係：高校の先輩

日常活動：昨年10月までイギリスへ半年留学

内定先：飲料メーカー

《インタビュー》

ESはどのくらい提出されたのですか？

電子部品メーカー、素材部品メーカー20社ほどに提出し、9割は通過した。

企業の方は大量のESを見なければならぬ。早めに出して見てもらう方がいいと思う。また、見やすい構成で、言いたいことを始めに持ってくるようにした。

自己アピールはどのようにして見つけましたか？

ずっとバスケットボールを続けていたので、そのことと、留学のことにし、前の面接でのウケを参考にして使い分けていた。

サークルはみんなが話すことなので、突っ込まれて聞かれたときのために、どんな困難があつて、どう克服して、自分はどんな役割だったかなどを考えておいた。具体的な数字をだすこと効果的だった。例えば、関西1位になったことや、得意なディフェンスで、平均〇点とる人を〇点に抑えたなど。

ずっと続けていたことに関しても、主に大学時代の出来事について話す方がいい。

面接について教えてください。

練習はするべきだと思った。いっぱいした人は内定も多くもらっていた。自分の場合は、受けて、失敗してだんだん慣れていった。

準備としては、ゼミと自己PRについては必ず聞かれることなので、何を話すか決めて行った。

最初はさわやか路線でいこうと思ったけれど、考えてゆっくりはなすところやまじめ

なところから、人がよさそうオーラでいくことにした。

面接で、自分の言ったことについて聞かれる分には困ったことはなかった。難しい質問には焦らず悩んで答えていいし、そのほうが、しっかり考えていることが伝わるのではないかと思った。

短所は、長所すぎて…というように、長所につながる短所をはなすことで、突っ込まれることがないようにした。

□就活を通じて感じたことを教えてください。

男女では、求められていることに違いがあることは明らかに感じた

女性は笑顔や人のよさが大切だというけれど、男性の場合は、顔つき、はきはきした話し方、資格、体力がありそうかが大切だと思った。だから体育会は有利。

また、電子部品メーカーは、日本が海外に誇れる業界だと留学で実感したので特に希望していた。しかし、最終選考で続けて失敗したときに、行きたいところに凝り固まるのではなく、やりたいことは、売り込むものが違うだけで、メーカーであればそう変わることはないと思ひだし、選考で会う人を気にするようになりだした。

内定先のおじさん方とはとても気があったし、カラオケに行ったりもする。そういう点で、やはりこの会社でよかったと今は感じている。人間そう思うようにできている。

《まとめ》

ABさんは留学から帰ってから割とすぐに就職活動が始まったので、準備期間があまりなかったそうです。なので、選考がすすむにつれてみえてくるが多かったのかなと思いました。自分の行きたい業界だけでなく他のことにももっと視野を広げてみようと思いました。

A Cさんへのインタビュー (no. 073)

《プロフィール》

同志社大学法学部法律学科4回生 ACさん（女性）

関係：高校のクラブの先輩

日常活動：英会話、習字

内定先：京都銀行

《インタビュー》

□なぜ金融業界を志望したのですか？

インテリア、繊維業界にも興味はあったけれど、メーカーは転勤がある。関西で働きたいという自分の第一条件に合っていた。また、説明会での福利厚生の話や、雰囲気、座談会で話したひとの人柄も良かったので。

□ES ほどのように出しましたか？

50 社位に出し、半分通過した。

書きたいことはいっぱいあっても、パッと見てわかりやすく、いいたいことを最初に書くようにした。文字ばかり敷き詰めないことも見やすく書くコツ。また、基本は同じ話でも、会社の求める人材に合わせて言い方などを変えた。

□自己分析はどのように行いましたか？

11 月頃から、ノートに短所と長所を書き出した。本や携帯サイトも参考にしたり、友達にも聞いたりした。

そのうちに継続力が自分のアピールポイントだと発見した。習字を続けていたことなどから、常に目標を作って達成した喜びを次の目標にして成長していることがわかった。

□面接はどのような感じでしたか？

3～4 次面接までだった。

慣れてきたら質問を予想することができた。

なぜこの業界を選んだか、なぜ銀行か、なぜ地銀か、なぜこの会社か、会社で何がし

たいか、それはなぜかは、よく聞かれることなので、「なぜ？」を繰り返しながら考えて行っていた。

集団面接はかたい雰囲気、時間も限られているので言いたいことが言いづらかった。

個人面接は和やかで話しやすいところが多かった。

挨拶に工夫をした。

□大変だったことは何ですか？

人気の説明会は予約が殺到するので、1分の戦いだった。

ESの締め切りが2・3月に一気にくることも大変だった。

ほとんどが4月に面接を行う。他社の面接の日程を聞いて、わざと同じ日にかぶせてこられることもあった。

□就活を通じて感じたことを教えてください。

思っていたよりも自分を語るが多かったので、自分で自分を理解していないと詰まってしまう。

採用枠が途中で減ることもあり、不況を感じた。

会社のことをよく知って、自分と会社選びの軸を結びつけることが大切。

《まとめ》

金融業界のことはまったくしらべたことがなかったので、全体的にすることができてよかったです。

金融だからといって特別なことはなく、自分の軸を見つけることや、聞かれる内容など、基本は他の企業と変わらないのだと思いました。

A Dさんへのインタビュー (no. 074)

《プロフィール》

同志社大学社会学部社会学科 4 回生 AD さん(男性)

関係：ゼミの先輩

日常活動：日本拳法部、総合格闘技

内定先：丸紅

《インタビュー》

ES ほどのくらい提出しましたか？

商社 4 社、銀行 4 行、生命保険 1 社、メーカーなど 4 社。

なぜ商社を希望されたのですか？

夏休みの海外インターンシップで商社の方と話す機会があり、仕事内容に興味を持ったので。

インターンシップはゼミで紹介されたもので、シリコンバレーにあるバイオベンチャー企業で 1 週間働いた。仕事内容は主に資産管理。様々な方と出会い、OB と話をすることができたのが収穫。そこで商社に魅力を感じ、人生が変わったと思う。

あと、お給料。

就活準備について教えてください。

夏休みは部活とインターンをしていた。12 月頃から自己分析を少しずつ始め、説明会が始まる頃に、筆記の勉強などを本格的に始めた。

自己分析は、なぜその会社に魅力を感じたのかを繰り返し考え、先輩に ES を見てもらったり、模擬面接をしてもらったりするうちにできた。自分の強みと、軸を見つけることが大切。

就活本はいらない。利用したのは SPI 対策と四季報のみ。

ES どのように作成しましたか？

1 つを先輩と一緒に完成させて、それも元に少しずつ企業に合わせた。

自己分析でみつけた軸にからめながら、自己PRや学生時代の部活のことを書いた。書き方は、結論を先に書いてから説明をする。説明に、「続きは面接でお話しします。」と書いてみたら意外と効果的だった。

話は大きめに1→10にして良い。

□面接について教えてください。

営業は人と話す能力が大切だから、笑顔でさわやかを出すようにした。体育会なので、はきはき元気よくも忘れずに。

最初の面接は若手社員で、どういう人かを判断するために学生時代にしてきたことを主にきかれた。最終面接になると役員級のこわいおじさんたちにおもに志望動機について聞かれた。

自己分析で軸ができていればそこに部活のことを絡めてどんな質問にも対応することができた。

□就活を通してどうでしたか？

困ったことは特になく、面白かった。会社の人と真剣に話す機会はあまりないことだし、えらい人達が自分の話を聞いて評価してくれるということは、貴重な体験だと思った。

不景気だといわれるけれど、会社は採用しようとしているし、前向きに頑張れば大丈夫、なんとかなる。

《まとめ》

ADさんの就活の順調さに驚きました。決まる人は決まるのだなと思いました。すごく話しやすく、さわやかで気配りのできる方でした。

就活は、普段では話す機会のない人と話をできる良い機会だと聞いて、就活に対するとらえ方が少し変わりました。

A Eさんへのインタビュー (no. 075)

《プロフィール》

A Eさん 男性 20歳

関係：元同じアルバイト先

日常活動：会社員、公務員試験の勉強

- A Eさんは、和歌山出身で大阪の短大に通っていましたが、関西大学への編入も決まっていたのですが、親の反対で急に就職することになり、働きながら地方公務員を目指して勉強をされています。

《インタビュー》

- なぜ短期大学に入学したのですか？

国語の教員免許を取りたかったから。四年制の大学に行っても社会しかとれないことが多い。

その頃は大阪に出てきたかったのもある。でも今は早く地元に戻りたい。

- なぜ大学に編入しようと思ったのですか？

短大だと公務員三種しかうけることができないし、高卒と同じ扱いになるが、大学に行くと一種、二種と幅が広がるので。

広告の勉強を専門的にしたいとも思っていた。

- なぜ地方公務員目指そうと思ったのですか？

地元就職したかったが、田舎なのであまり就職先がない。また、安定性を考えても公務員の方がいいと思ったし、田辺市民の役に立てる市役所勤務を希望するようになった。

- 周りが就職活動をする中で、一般企業に興味を持ったりはしなかったですか？

公務員のことしか考えてなかったし、気づけば周りはスーツを着て就活をしていたの

で、乗り遅れたなとは思ったが、特に一般企業に就職したいとは思わなかった。

□編入を反対されたあと、どういう経緯で今の会社に就職したのですか？

地方公務員になることはあきらめていないし、勉強は続けるつもりだったが、アルバイトをしながらよりも正社員になって合間に勉強する方がだらけないし、生活にも困らないのでつなぎとして就職を決めた。また、正社員として働いて損することはない。

急なことだったので就活をはじめたのは3月後半になってから。学校にきている求人の中から、早く受けられるところを2社受けて、今のバス会社を選んだ。職種は考えていなかった。

□今後どのようにしていくつもりですか？

公務員試験は一年に一回7月～10月にかけて行われる。一番の希望は地元の田辺市役所で働くことだが、今年はとりあえず大阪市の採用試験を受けようと思う。うかれれば大阪に残るのもいいかと思っている。

《感想》

同い年で、もう働いている人の話を聞くのは始めてでした。今までは、ずっと働くつもりで就職を決めている人にばかりインタビューをしていましたが、こんな働き方もあるのだなと思いました。公務員になる流れをまったく知らなかったので、話をきけてよかったです。

A Fさんへのインタビュー (no. 076)

《プロフィール》

大阪学院大学 4回生 A Fさん 男性

関係：アルバイト先の友人

内定先：両備ホールディングス

A Fさんは岡山にUターン就職をされました。

《インタビュー》

なぜ地元企業に就職したのですか？

就活の目標が最初から岡山に戻って就職することだった。一人暮らしをしたくて、大学4年間を大阪で過ごしたが、その中で地元のほうが自分に合うと実感したので。岡山以外の企業は受けていない。

地元での就活は大変でしたか？

何をやるにしてもまず岡山に帰らなければいけないのが大変だった。行きたい企業は地元思考で、地元の大学から多く採用していて、県外の大学からの採用は少なかったのもそこが心配だった。

30社ほど受けて、10往復以上はした。

どのように就職活動をすすめましたか？

就活本はそれなりに活用した。筆記対策と企業研究は大きいと思ったので、学校の講義でもそういった授業をとっていた。

あとはキャリアセンターをフル活用して、何か書くたびにってもらっていた。あとは大体自己流で乗り切った。

自己分析はどのようにしましたか？

パソコンサイトを使って10月頃から始めた。自己分析は自分で分かっていることば

かりで、やってみたが大して役立たなかった。

自分の短所も長所もわかっていたし、自己PRを見つけるときもまったく困らなかった。

□一番大事だと思うことは何ですか？

その会社に行きたいという気持ちをみせることだと思う。なので、会社にあわせて志望動機や自己PRを変えることに力をいれ、だからこそ企業研究が大切だと思い、力を入れた。

本当に行きたいと思っているかどうかは、面接で相手に必ず伝わるものだ。

□就活の全体の感想を教えてください。

しんどかった。試験を受けてから発表までの時間が苦痛だった。友人とほぼ毎日連絡をとって話をすることで気持ちを切り替えていた。

しかし、就活をする中で自分のことを相手に的確に伝える力がついた。また、普段ではかかわることのない企業の方々の話を聞いたりすることで、広い視野を持てるようになったと思う。

《感想》

地元との往復をしながらの就活はそれだけで負担が大きそうだった。

自己分析がすんなりできたというのは初めて聞きました。普段から自分のことを理解できているのはそれだけで長所だし、有利だなと思った。私もこの夏休みを利用して業界研究と自己分析をがんばろうと思いました。

AGさんへのインタビュー (no.077)

<プロフィール>

同志社大学社会学部メディア学科4回生 AGさん 女性

関係：高校のクラブの先輩

日常活動：カフェでのアルバイト、テニスサークル

内定先：フェリシモ（カタログ通販）、他2社

<インタビュー>

今回は主に企業選択、面接について質問をしました。

何社にエントリーしましたか？

食品メーカー、TV、ブライダル、広告、出版、小売、人材など、金融以外の目に付いた大手の企業50社ほど。

2/3くらい面接に進み、3社に内定。4社は最終面接を辞退した。

どういった基準で企業選択をしたのですか？

「人が生きるために必要なものを生み出す仕事ではなく、人が生きることを楽しいと思うことを生み出す仕事」に就きたかった。

大企業を選んだのは、就活は親孝行の一貫だと思ったから、親に胸を張って言えるような企業をと考えたので。

選考が進んだとき、自分は友達と遊べなくなるのは絶対にいやなので、土日休みが最優先であると重い、企業が絞られてしまった。企業選択の前に、自己分析をしておくべきだった。

面接のために準備したことは何ですか？

会社で面接をしている父親や、友人と面接の練習をした。

自己アピールをかためておいた。それさえしていれば、あとはその場で感じたことを話せばよかった。

面接本は左右されそうなので読まなかったが、おかげで空気を氷つかせてしまったことがあった。

実践型。場数を踏んでいくうちに慣れてきたので、本命の企業を受ける前に、何社も面接をかさねておくべきだと思う。

面接で大切なことはなんですか？

自己ブランドの確立！これを一番大切にした。

→自分の売りである＜笑顔と元気＞が、みてもらってすぐわかるような素振りを心がけた。最初から最後まで、どんな空気でも、笑顔とはつらつ感を絶やさないようにした。笑顔の悪い印象をもつひとはいないし、相手もそのうちつられる。

1次面接では、次にじっくり話してみたいと思う人をみられている。相手にこのひとも1度会いたいと思わせるために、印象に残ることが大切。それが私には元気という雰囲気だった。

面接を盛り上げるという意識。

自己アピールには「相手の立場になって物事を考える」という一貫性をもたせて話した。

就活全体を通しての感想をお願いします。

自己分析を最初にしなかったのでこまることがあった。

途中メール1通で採用活動の中止が知らされるなど、不景気を実感しながらの就活だった。こんなときだからこそ、金融は受けておくべきだとおもった。女の子なら自己分析をした上で一般職も考える方が良い。

内々定がでたら、とりあえず判子は押しておくべき。

80%は楽しかった。面接でこわいフリをするおじちゃんを笑わせてしまったときなどに感じた。愛想・笑顔・元気・根拠のない自信が大切だなと思った。

<感想>

AGさんは、いつもにこにこしていて、後輩にもとても好かれている先輩です。自己ブランドの笑顔と元気がほんとうにぴったりあてはまっていると思いました。

自分の売りを確立することができていて、お話を聞いていてもそれを軸にして内容に一貫性があると思いました。

やはり自己分析で自分の軸を見つけることが就職活動を乗り切る鍵だと思いました。

AHさんへのインタビュー (no. 078)

《プロフィール》

同志社大学社会学部メディア学科4回生 AHさん(女性)

関係：以前インタビューさせていただいたAGさんの友達

日常活動：2回生…福娘、昨年…サンテレビイメージガール

内定先：ABC放送(アナウンサー)

《インタビュー》

AHさんは、アナウンサー志望で、一般的な就職活動は行わなかったそうです。

今回は、アナウンサーの就活について全体的にお話を伺いました。

○アナウンサーを目指そうと思ったきっかけは何ですか？

中学校の時に放送部のお手伝いをしたときに、楽しかったので目指そうと思った。

○就職活動はいつごろから行われたのですか？

10月から始まり、12月半ばに内定が出るまで、2ヶ月半就職活動をしていた。

○採用までの流れを教えてください。

まずはESの提出。送るところや、持って行って直接渡すところがあった。

受けたのはキー局と、ABCと関テレだった。

面接は5次くらいまでで、多いところは8次まであった。

圧迫面接はなくて、フレンドリーで面談のような感じだった。

カメラテスト、原稿読み、一問一答などがあって、驚いたのはビヨンセの真似をしてくださいというもの。面接で踊った！

テレビ局ESの提出から採用までが早いので、提出するだけのために一泊で帰るつもりで東京へ行ったのに、次々と選考が進んでしまい、12連泊することに。でも、タフさのアピールになった。

採用されるのは多くて4人。読売とMBSは採用がなかった。

○一般的な就活と違うところは何ですか？

時期が早いことと、面接方法。

服装も違った。リクルートスーツを着て髪は黒でという決まりはなく、服も髪も自由。ピンクや白のワンピースにジャケット、リボン付のパンプスを履いている人もいた。

就活ノートを作ったりもせず、ナチュラルを心がけた。

質問されることは、学生時代にしてきたことよりもこれからやりたいことを聞かれた。

○選考にむけて準備したことは何ですか？

福娘やイメージガールもそうだし、自分の大好きなアナウンサーの研究もした。

○どのようなことをアピールされたのですか？

アナウンサーを目指す人は、会社はどこでもよいので、とりあえずなりたいという人が多い。そんな中で、この会社が好きだということをアピールした。

キー局の面接では、関西出身が不利にならないよう、標準語で話し、面白いだろうところで関西弁を使うことで、関西をブランド化した。

あとはギャップ。面接には紺のかったりした雰囲気のある服を着ていったが、趣味は農業と話し、ギャップを出した。身近なアナウンサーになりたかったので、農業という部分で伝えられればと思った。

○どのようなアナウンサーを目指されますか？

額縁みたいなアナウンサー…主役をより引き立たせる。

お味噌汁みたいなアナウンサー…主役ではないけれど、ないと寂しい身近なもの。

《まとめ》

アナウンサーの面接では、どの局でも同じ人が残り、あとはテレビ局のカラーにあう人が採用されるため、ある局では最終選考まで残った人は全員顔見知りということがあったそうです。やっぱり素質があるのだろうなと思いました。

AHさんにお話をうかがったのは20分という短い時間でしたが、質問に対して私の知りたいことを的確にすらすら話してくださり、本当に頭のいい人だなと短い時間ながら感じました。

バラエティー部門だそうで、来年から活躍されるのが楽しみです。

A I さんへのインタビュー (no. 079)

□はじめに

今回のインタビューでは、①企業選び、③面接の二点にポイント絞り調査を行うことにした。

□対象者のプロフィール

- ・ 同志社大学商学部 4 回生 A I さん(男性)
- ・ 内定先…百貨店

高校から知り合いの先輩で、メールでインタビューをお願いしたところ、快く引き受けてくださった。

□企業選びについて

Q：業界はどのように絞っていききましたか？

A：1 人でも多くの人を幸せにできる職業で、自分も楽しめる仕事がしたいという思いに沿うようなところを選んだ。主に TV、広告、出版、百貨店(バイヤー)、映画関係。

Q：その中からどのように企業を選んだのですか？

A：大企業を 40～50 社ほど。中小企業だとつぶれる可能性が高くなる。大企業のほうが多くの仕事のノウハウを学べて、もし将来企業や転職をすることがあったときに活かせるし、名前の知れた会社にいた方が有利ではないかと考えたから。ミーハーなものも多少はある。

□面接について

Q：面接の形式はどのようなものがありましたか？

A：複数の面接官との個人面接が多かった。あとは 1 次でグループ面接もあった。

Q：面接官はどのような雰囲気でしたか？

A：そんなにこわくないし、話しやすいところが多かったが、役員面接までいくとさすがに雰囲気にあっとうされそうになった。テレビ局など中にはすごく上からみてくるところもあった。質問の仕方、「じゃあ自己 PR して」というような感じの会社が多い中、ES を見て内容に触れつつ質問をしてくれるような企業は感じが良かった。

Q：面接のために準備したことは何ですか？

A：ある程度のポイントを準備し、それを軸にこうきたらこう話すなどを受ける企業にあわせて考えていった。ポイントというのは自己分析で明らかになった信念やモットー。ここがぶれていなければ質問にも答えやすいしESも書きやすい。就職活動で一番大切なことは自己分析。

例えばバイヤーを希望して百貨店を受けたときは、「自分が話したことで相手が笑ってくれたら最高だ」「人と話すことが好き」というのを軸に、「ハワイで買った服で自分があまり着ていない服をたまたま友人に褒められたので、安く譲ってあげた。そのときのありがとうと笑顔がうれしかったし、後日友人がその服を着て女の子に褒められたということを聞いてさらにうれしかった。バイヤーになればもっと多くの人を幸せにできると思った。」ということをお話そうと決めていた。

Q：面接で大切なことはなんですか？

A：まず笑顔とはきはき話すこと。あとはどれだけ面接官を惹きつける話し方ができるかだと思う。演劇やファッションショーをしていたことなど、少数派のエピソードを自分の信念とつなげて話した。ただ質問に答えるのは誰でもできる。聞かれていることにうまく自己PRをからめつつ、簡潔に話すように気をつけた。例えば演劇をするなかで0から作り上げる企画力、あきらめない力を得たなど。なにをしたかよりもそこで何を得たかが大切。話はちょっと大きくしても大丈夫。0を100にしたらうそつきだけど、1を100にしてもうそではないから。

□まとめ

就職活動の基盤になるのは何よりも自己分析。すごい人は自己分析をノート何冊分にも書いているそうだ。そして、聞かれていること正確に理解し、思っていることを的確に伝わりやすく伝えられる話す力が必要だ。A I先輩は、緊張するのは当たり前。緊張してどれだけ話せるかどうかだとおっしゃった。